

ウイシュマさんの一周忌によせて

2022年3月6日

入管を変える！弁護士ネットワーク

ウイシュマ・サンダマリさんが名古屋入管で亡くなられてから、今日で1年が経ちます。しかし、死亡事件の真相と原因は未だ明らかとなっていません。

この間、入管庁は、2021年8月10日に「令和3年3月6日の名古屋出入国在留管理局被収容者死亡事案に関する調査報告書」を公表しました。しかし、同調査は入管庁の内部調査に過ぎず、現在まで、入管庁は、遺族の意向を無視して、死亡前のウイシュマさんの状況を撮影したビデオデータを遺族に渡すことを拒否し続けています。

また、入管庁は、2022年2月28日に、有識者会議から「入管収容施設における医療体制の強化に関する提言」の提出を受けました。しかし、ウイシュマさんの死亡事件は、身体拘束から速やかに解放し外部の医療機関に入院させないばかりか、帰国に同意しなかったウイシュマさんに対して点滴などの最低限の医療すら行わないことにより死に至らしめたという入管収容制度自体の問題であり、収容施設内の医療体制の問題に矮小化すべきではありません。

このように入管庁の姿勢は、死亡事件の真相と原因の究明について極めて消極的であり、また、原則収容主義の制度を維持する自身の責任と真摯に向き合うものとは到底いえません。

我々は、ウイシュマさんの一周忌によせて、心より哀悼の意を表するとともに、死亡事件の真相と原因を明らかにすることを、改めて誓います。

また、国際人権法に適った真の入管法改正を実現すること、具体的には、

- ・原則収容主義を廃し、入管収容に司法審査や収容期間の上限を導入すること、
- ・国際人権法に適った在留特別許可の許可基準を法律で明示すること、
- ・法務省・入管庁から独立した専門機関が、国際基準に則って審査し、難民が難民として認定される制度を実現することを、

改めて誓います。

そして、真の入管法改正に逆行する政府の入管法改悪法案の再提出には断固として反対することを、改めて誓います。

以上